

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800039	事業の開始年月日	平成19年2月1日	
		指定年月日	平成19年2月1日	
法人名	NPO折本福祉サービス			
事業所名	グループホーム蘭寿おりもと			
所在地	(〒224 -0043) 横浜市都筑区折本町1374-1			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは、緑に囲まれ田畑が多く環境面には恵まれており、お散歩するには車も少なく最適だと思います。日常生活の中で利用者様と職員が仲良く一緒にお散歩することから、一日が始まっていましたが、コロナ禍でなかなか思うようにお散歩、外出、外食などが出来なくなってしまう、を、大変心苦しく思っております。フロア内での行事を優先して行っています。塗り絵、歌レク、パズル、数読等楽しませております。また、季節ごとに様々の行事を行い、お雛様・節分・お誕生日会・ハロウィン・クリスマス・お正月と行事食のメニューを利用者様とご一緒に考えお出ししています。

ご家族様との面会は、玄関先に長椅子を設置し、ドアを開けた状態でマスク装着し行っています。(2回のワクチン接種終了の家族のみ)面会に来られない方はリモートでお話しされています。昼食時、ドライブを兼ね、ご利用者様とご一緒に調理パン・おやつのお買い出しに出かけることもレクの一環として行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年3月16日	評価機関 評価決定日	令和4年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念「利用者本位」に基づく運営

・職員は、理念の実現に向けて、行動指針「蘭寿クレドの内容『①利用者様に尊敬の念を持ち続けること』『②利用者様にも職員にもやさしい気持ちを持つこと』など、③項目」を共有し、利用者ができることは実践していただき、できないことはお手伝いして、自立保持の支援に努めている。

・利用者一人ひとりの状況や思いに応じたケアを提供するため、介護計画書に加えて「統一ケア個別対応表」を作成し、利用者への対応方法を職員間で情報を共有して、きめ細かなケアを実施している。

◇ブログによる利用者の近況紹介

・隣接の事業所「蘭寿しらかし」と連携し、利用者の生活、活動の様子を発信している。お正月の獅子舞来訪の様子、女性コーラスサークルの合唱、お寿司とケーキでお祝いした1月の誕生日会、2月は年長者が鬼になる節分の豆まき、3月はひな祭りの食事の様子などの映像を、家族は楽しみにしている。

【事業所が工夫している点】

◇新型コロナ禍対策中の室内活動

・利用者と職員の散歩から始まっていた日常が、コロナ禍対策で中断されている。職員は、利用者の好み、季節、行事、状況などに合わせた活動を工夫している。フロアランプ、オセロゲーム、パズル、季節ごとのイベント、お誕生日会、塗り絵、風船バレー、歌レクなどを利用者の要望を聴きながら実施し、楽しめるようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	いぶき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の理念を職員同士で共有し理解・確認し合い、理念を基にしたケアを行い、利用者にとってより良い生活が送れる様に努めています。入職時にオリエンテーションで理念の説明を必ず行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者本位」の理念のもと、管理者、職員は13項目の行動指針「蘭寿クレド」を携帯し、日々、唱和、共有して、利用者寄り添う支援に努めている。 ・職員は「統一ケア個別対応表」を作成して、ケアに生かしている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や散歩の際、近隣の方とコミュニケーションを図り、町内の夏祭や獅子舞、お神輿等の行事や防災訓練に参加しています。また定期的に地域のボランティアの方をお招きし演奏会を行い交流しています。(コロナ収束時)	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入し、コロナ禍以前は夏祭りや防災訓練に参加していた。地域のボランティアの定期的な訪問もあった。今年の正月には、事業所前に獅子舞が訪問してくれた。 ・散歩の際に出会う地域の方とは、親しく挨拶を交わしている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域の行事に(獅子舞・夏祭・清掃)参加をしたり、こども110番に登録をしています。また、運営推進会議等にて、利用者様の状況や支援等を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、ご家族・近隣住民・区役所職員・地域ケアプラ職員に活動報告を行い、意見交換を行うと共に、地域資源の活用が出来るように努めています。拘束についての考え方などもお話ししています。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は今年度、2回の開催以後、コロナ対策により中止となっている。 ・会議では「事業所の現況と行事や活動、課題等の報告」の後、意見交換し「身体拘束と虐待防止」について検討してる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での会議中止時は、書面による活動報告とともに、メンバーからの意見や助言を得る工夫が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から区役所の方と生活保護の方が数名おられる為、連絡を取るようになっています。また、運営推進会議やブロック会議等にて担当者から連絡を受けたり、取り組みなどの報告を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢支援課、生活支援課とは密に連絡を取り合っている。 ・横浜市からのコロナに関するアンケート調査に協力している。 ・区のグループホーム連絡会議では、「帰宅願望」の方のケア等について情報交換している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会（フロア会議）を行い、理解を深め職員間で情報共有しています。見守りなどを徹底し、ホームでは身体拘束は行っていません。離設の恐れがある利用者様が居る為、フロア内や玄関の施錠を行っています。	・身体的拘束適正化のための指針を整備し、運営推進会議の際に適正化検討委員会を開催している。 ・毎月のフロア会議で適正化のため指針の読み合わせや「してはならない行為」をチェックし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待についての勉強会を行い、身体的だけでなく言葉の暴力など間接的な事も含め、職員同士が注意し合いながら防止に努めています。排泄や入浴の際等に注意深く確認し、見逃さない様努めています。コロナ禍で勉強会は行えていないので申し送りなどで聞き取りを行っています。	・利用契約書で「暴力や虐待及び身体的精神的束縛を受けないこと」を規定し、虐待防止のための指針を整備している。 ・毎月のフロア会議で虐待防止法等について学び、申し送り時の内容や入浴の着脱時の様子、言葉かけなどに注意を払い、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は職員やご家族様に守られている為、特にご不自由をおかけしていないと思うのですが、今後、何が起こってくるかわからないので、全職員が理解出来、活用することが出来る様に勉強会を設けたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時や契約の際には、必ずご家族様には口頭や書面にて説明を行い、理解・納得の上同意を得ています。また、不安や疑問が生じた際には、その都度説明を行えるように体制を整えています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、ご家族様にはお手紙やお電話、来訪時に近況報告を行っています。その際ご意見・ご要望を伺い、職員間で情報を共有し職務に反映させています。また、ケアプランの説明時には必ずご要望をお聞きしています。玄関に意見BOXを設置。	・毎月、家族に送る「写真つき近況報告書に記入用紙」を添付して、家族からの意見、要望を聞いている。 ・重要事項説明書には、相談窓口を記載し、玄関に意見箱を設置して、意見や要望の収集に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員より意見や提案などを聞く機会を設け、申し送り時や会議などで話し合い職務に反映させています。また、管理者は定期的に職員と面談をします。最近では会議が出来ないので、会議の前には必ず全職員の方に意見、提案事項を提出してもらっています。	・管理者は、定期的に職員との面談を行っている。 ・朝夕の申し送り時の連絡ノートの内容をフロア会議で検討し、職務に反映している。 ・会議の開催前に、全職員に提案事項の提出を依頼している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力・実績・勤務状況を把握をしているとは思いますが、給料水準の明確な評価基準がありません。不平不満がある際には話しやすいよう業務中だけでなく、休憩時間等を利用し、積極的に聞くよう努めています。	・管理者は日ごろから気軽に職員に話しかけ、相談にも応じ、勤務実績、努力を把握している。年2回の面談でも意向、課題など相談に応じている。処遇の基準など難しく感じているが、やりがいを感じられるよう環境や条件の整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に介助方法等の施設内研修を行っています。また、外部研修を行った際には、その情報を職員間で共有し反映出来るように機会を設けています。（外部研修は中止。）	・入職時に理念の説明、介助方法等についてOJTを実施して、習得するまで時間をかけて対応している。 ・外部研修は、現在行っていないが、実施した場合は研修内容を共有する機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に区内のグループホームと交換研修を行ったり、ブロック会議などに参加し、認知症の取り巻く環境がどのように関わりを持つかお互いに勉強・理解し、ホームに反映出来るよう取り組んでいます。（コロナ禍の為中止）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様やご本人様から要望・意見等を集めアセスメントを行っています。利用者様との関わりを大切にし、1日でも早く慣れて頂ける様、安心して生活して頂ける様な関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはしっかりと説明を行う。 入居後は定期的にご家族様と連絡を取り合い、要望等は迅速に誠意を持って対応し、関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人様からのご要望お聞きし、今現在どんなサービスを行う事が1番必要か、職員全員が共有にし対応出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に日々の生活を送る中で、ご本人様が行える事を見つけ行って頂く事で、立場にとらわれない関係を築いていくよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月お手紙を送付し近況報告をし、共に支えていける関係を築ける様努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の面会者はご家族様から情報収集を行い、慎重に対応するよう努めています。また、馴染みの方や場所との関係が途切れない支援をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメント情報、本人、家族の話から利用者の馴染みの人や場について把握している。フロアごとに1~2人の友人との交流（北海道在住者とも）を支援している。 ・コロナ禍の現在、家族が来所の際は、窓越しに面会を行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様全員に目を配り、良好な関係が築ける様職員が間に入り、レクリエーションを通して円満な関係が保てるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも必要であれば、いつでも相談・支援が出来る様な関係作りに努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位のケアが出来る様に、利用者様にとってどのような事が望ましいか、ご本人様・ご家族様・職員からお聞きし検討し行っております。	・生活史ノート、家族シートなどからケアのヒントを得たり、家族との面談で意向を把握している。 ・職員が利用者と共に腰かけ、「どちらの食べ物にする？」「どのレクをしたい？」など、本人の意向を大切に聞き取って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご本人様・ご家族様からお聞きし、生活歴や入居に至る経緯等を、カンファレンスを通して職員へ説明を行い、理解・共有出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の様子を記録して把握し、ケースや業務日誌、連絡ノートや申し送り、カンファレンス等を通して、その日の心身状態・特変事項等の把握をし、共有出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやフロー会議を行い、職員の意見や提案事項を聞き話し合い、変化に応じて、その都度見直しをしています。ご家族様からも意見をお聞きし、介護計画に反映させています。	・介護計画は6か月ごとにモニタリング結果や本人と家族、職員、医療関係者の意見を参考に見直している。 ・ケアプラン以外に「統一ケア個別対応表」を作成しており、それぞれの利用者への対応方法を職員間で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡ノート、ケース記録に日々の様子を記録し職員間で情報の共有をしながらその都度見直しをして、業務を進めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況・状態に合わせ、より良いケアが行えるよう職員間で情報の共有をし、必要に応じて訪問マッサージや通院の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合った地域資源を把握し、それを活用する事でご本人様が安全で豊かな暮らしを送れるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科等の定期往診にて利用者様の健康状態を報告しています。特変時はその都度往診医に連絡しています。ご本人様ご家族様のご希望があれば、入居前のかかりつけ医や他の医療機関を受診出来るように支援しています。	・家族の同意を得、全利用者が協力医療機関医師をかかりつけ医とし、訪問診療や専門医紹介を受けている。協力医療機関からは訪問看護を受け、連携して健康管理している。 ・コロナ禍の現在、協力歯科医院の送迎付き歯科診療を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて利用者様の状態報告をしています。特変時はその都度往診医に報告し、適切な処置をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には面会や電話連絡・書面にて、病院関係者やご家族様と情報交換や相談を行い、早期に退院出来るように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針については、入居時等に往診医・ご家族様・職員間で話し合い、利用者様にとってより良い支援が出来るよう取り組んでいます。	・契約時に、状況や要望に応じて医療機関等の利用を支援する旨の終末期に向けた方針を説明し、利用者等の同意を得ている。 ・終末期との医師の判断で医療関係者や家族と相談し、要望に応じた終末期支援を実施している。関係者と協力して看取りを行うこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを職員室に掲示すると共に、定期的に勉強会を行ったり、職員間で情報の共有をして、いつでも対応出来るようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	迅速に対応出来るよう消防署指導の下、定期的に職員・利用者様も交えての避難訓練を行い、避難経路等の確認を行っています。また、近隣の方や隣の棟との協力体制を整えています。	・年2回、夜間想定を含む避難訓練を利用者とともにを行い、毎月フロアごとに避難のシミュレーションを実施している。 ・水や缶詰、米などの食品1週間分、毛布やカセットコンロを備蓄しリスト化して管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの自尊心を傷付けない様、常に尊敬の念を持って、傾聴や言葉掛けの際にはじゅうぶん注意をし、誇りやプライバシーを損ねないように対応に当たっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りでは、利用者名を出さず「個人情報を含む利用者との会話」は、居室で行うなど配慮している。 ・居室入室の際、職員は利用者へ声をかけて同意を得ている。 ・職員は必ずトイレのドアを閉めての排泄・介助を申し合わせている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや何を希望されているのか、出来る限り自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の目線・立場に立って考え、一人ひとりのペースを大切に、出来る限り希望に沿った支援が行えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様・ご家族様からお聞きし、好みの洋服や髪形など希望を取り入れ、一人ひとりに合った身だしなみ出来るように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回ではありますが利用者様から希望のメニューを伺っています。また、季節を感じて頂ける様毎月行事を行ったり、旬の食材を使った食事やおやつを取り入れています。無理のない範囲で、準備や後片付けをして頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立と食材配送を業者委託し、職員が調理し提供している。 ・週1回の利用者希望メニューやプリンなどの手作りおやつ、お好み焼きなど、食を楽しめるよう工夫している。 利用者は、自分にできることを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた摂取量を把握し提供しています。常に記録し確認する事で体調の変化に気付く様になっています。		
41					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持が出来るよう毎食後必ず口腔ケアを行って頂き、ご自分で出来ない所に関してはお手伝いをさせて頂いています。希望の方、必要な方に関しては歯科往診の支援も行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌に記録をする事で、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るよう声掛けなどを行っています。	・体操前など「行きたい方はどうぞ」と声かけで、自らトイレに向かうきっかけを作っている。さりげない個別誘導も行っている。 ・リハビリパンツやパッドの使用開始や変更は、最適なケアとなるよう職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操やお散歩の行い、体を動かす機会を設けています。またこまめに水分を摂取して頂いたり、乳製品やオリゴ糖等を提供しています。必要に応じて往診医と相談し、下剤の調整を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や状況に応じて、出来る限りご希望に沿えるよう対応しています。入浴剤を使用し、楽しんで入って頂けるよう支援しています。	・朝、当日の入浴希望者を募り、利用者個々が、原則週2~3回入浴している。 ・職員は話をしたい利用者には傾聴し、一人でゆっくり入浴したい方には見守るなど、それぞれに合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて、休息したり安心して休んで頂ける様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は必ず2人で確認しながら行い、服薬後は状態の変化に注意しています。異常があればすぐに往診医に報告し受けています。常に最新の服薬内容が把握できるよう薬説ファイルを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様・ご家族様に趣味やお好きな事をお聞きして把握し、少しでも張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ、買い物等の外出支援を行っています。今現在行えていませんが、外食等にも出掛けています。	・感染防止に配慮の上、散歩や外気浴、おやつなどの買い物など、近距離の外出を支援している。 ・コロナ禍で現在控えているが、弁当持参の公園での花見やバリアフリー店舗での外食などの外出機会を設けている。高齢者が使いやすい席の用意など、店舗の協力がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人での管理はトラブルの原因にもなりかねる為、事務所にてお預かりしていますが、必要な際にはその都度お渡ししています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様に連絡し、いつでもご本人が電話を掛けられるよう支援しています。また、手紙のやり取りに関しては常時行えるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に掃除を行い整理整頓をし、清潔な空間であるよう心掛けています。廊下やリビングでは、利用者様と一緒に作成した季節の飾り付け等や、行事の写真等を貼りだし、四季折々季節を感じて頂ける空間になるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・空気清浄機の設置や頻繁な換気、毎日の清掃定期的大掃除で居心地よい環境を整えている。 ・正月飾り、雛人形、利用者や職員の作品で季節感を採り入れている。 ・落ち着いた入眠に向け、就寝時間前から明かりを少し落としている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングにソファを設置しています。利用者様一人ひとりが不快な気分にならないよう職員が間に入るなど気を配り、少しでも居心地の良い空間になるよう支援しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ環境が変わらない様、入居前から使用していた物を取り入れ、少しでも居心地の良く過ごして頂けるような環境作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、クローゼットに陽明が設置され、利用者は使い慣れた寝具や家具、家族の写真などで居心地よく整えている。 ・原則週1回リネン交換し、職員が利用者と相談、協力して清掃や衣類の入れ替えを行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や食事の準備片付け等出来る事はお手伝いして頂き、自立した生活が送れるよう支援しています。		

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	あけぼの

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に元にサービスが行えているのか、常に確認し合い業務についている。管理者は、理念が実践に繋がっているのか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度同様、コロナの為、行事が中止となってしまったが、例年は獅子舞・お神輿・盆踊りに参加させて頂いており、地域との繋がりを大切にしている。お散歩に出た際には、挨拶を交わし、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置・こども100番の登録を行い、地域に根差した事業所を作りを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度もコロナの影響で行えてないが、本来は3ヶ月に1度は定期的に運営推進会議を開催しており、各方面から出た意見を職員に話、日々の業務に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の方とは、常に連携を取り合い、現況の報告を行っている。また、運営推進会議でも、地域の方へ積極的に取組みを伝えながら、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員同士が、身体拘束や暴言・暴力について気にし合い、意識の向上に努めており、会議などで、定期的に学んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	着替えや入浴の際、身体状況を細かく確認し、些細な状態も見過ごさない様に努めている。また職員は、職員の行動の把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝・夕の申し送りの時間や、会議の時間に学べる様にし、ご利用者様の必要としている制度があるのか、確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ご本人様・ご家族様の見学や面談時に、細かく不安や問題点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪された場合には、現況の報告を行い、ご家族様からの意見や要望が得られた場合には、管理者や職員へ報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送りや会議に参加し、職員が意見を出しやすい環境を多く設ける様にしており、意見や提案は直ぐに反映出来る様に務めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との連携を密に取り、日々やりがいをもちながら働いているか、代表者と話し合っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者と一緒に、職員一人一人の力量を把握し、それぞれスキルアップ出来る様に、法人内外の研修に参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームと交換研修の場を設け、それぞれの職場の利点など持ち帰り、その後のサービスの向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に困りごとや、不安に思っている事がないか確認し、必要であれば、ご家族様にも今迄の暮らしの状態を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談等では、十分な時間を掛けて、困っている事や要望がないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が必要としている支援がないか、使える制度やサービスがあるか見極め、速やかに支援できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を支え合うという意識が持てる様、日常生活において、出来る事があれば積極的に参加して頂く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月末にお送りしている報告書に、ご本人様の現状を詳しく記載し、ご家族様も今のご本人様の状況が把握出来る様に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のお力をお借りし、ご本人様が希望された場合には、外出支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が、会話や関り合いを持ち易い様に、環境を整え、孤立しない様に努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、これまでの関係性を大切にし、支援できる事があれば行っていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様やご家族様からの意見や要望、意向を確認し、ご本人様らしく暮らして行ける様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の暮らしの状況を、ご本人様やご家族様からお聞きし、今迄の暮らしがどの様な物であったのか把握する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・申し送りノートやPCのケース記録には、1日の様子や身体状況などを細かく記載しており、申し送りでも漏れない様に職員全員が把握出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは定期的に記載する様になっており、職員・ご本人様・ご家族様の意見や要望が反映された介護計画書が出来る様にされている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気付きも見逃さない様にし、得られた情報は申し送りノートやPCのケースに記載して、職員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況により、通院や外出支援、今迄利用してきていない支援なども検討し、サービスが受けられる様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様やご家族様のご要望などがあった場合には、地域社会との繋がりが出来る様に支援していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の定期的な往診があり、毎週火曜日には訪問看護にてお身体の状態を把握していく。必要なケアや受診があった場合には、速やかに適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の訪問看護で、お身体の細かな状況を伝えており、適切な受診や看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の相談員との繋がりを大切にし、安心して治療が受けられ、早期の退院が出来る様、連携を深めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ケアカンファレンスが行われ、医師・看護師・職員で適切な支援が行われていく様に話し合い方針を決めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に職員が慌てない為にも、急変や事故が起きた場合には冷静な行動が取れる様に、マニュアルに沿った訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、職員全員が不測の事態に備えている。地域の消防署の方が避難経路の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お声掛けには十分に配慮し、尊厳が失われない様に努力し、職員は互いの発言に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の生活ペースに合わせ、各個人の希望や要望が出しやすい状況を作り、職員本位の支援にならない様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった流れを気にせず、マイペースに過ごして頂ける様に、職員側の都合を優先しない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられる様に、定期的に訪問で理美容が受けられる様に支援している。また、ご家族様のご要望もお聞きし、ご本人様に合ったお洒落が出来る様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ、旬な食材や季節の行事を意識したお食事が提供出来る様に支援している。事前準備を行えるご利用者様は、一緒に準備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に一日の水分量・食事量を細かく記載し、お一人お一人に合わせた適切な量が提供される様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人に合わせた声掛けを行い、スムーズな流れでケアして頂ける様にしている。ご自分で行う事が出来ない場合には、職員と一緒に行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	業務日誌に細かい時間を記入する事により、排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事量に配慮し、ヨーグルトやオリゴ糖等、食物から自然な排泄が出来る様に支援している。それでも難しい場合には、適切な医療が受けられる様に支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合を優先せずに、成るべくご希望の時間やタイミングに合わせた支援が行える様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の時間も大切に、ゆったりとした気分で入眠を迎えて頂ける様に気を配っている。個々に合わせた就寝のタイミングで声掛けを行う様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説は直ぐに確認出来る様になっており、職員全員が把握する様に努めている。また、変更された場合には、その都度申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事やお好きな事、出来る事を生かして、気分転換の時間を作り、生活に張り合いが持てる様に支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩や外気浴はお天気の良い日には出掛けられる様、職員が支援している。外出に関しては、ご家族様にも協力して頂き、出掛けられる様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、ご家族様の同意の元、手元に置いて頂いている。自己管理が難しい方に関しては、事務所で預かりし、ご希望の際には、直ぐにお渡し出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望者様には携帯電話の持ち込みも支援しており、連絡を取りたい時には直ぐに使える様になっている。お手紙は職員が投函してやり取りが出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけを工夫し、四季が感じられる様な空間作りに努めている。不快な臭いがないか、職員は常に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士がゆっくりと過ごせる様に、ソファの設置や環境作りを行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の要望や、ご本人様の意向等も確認しながら、馴染みの物や、好みの物を取り入れ、心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況を良く見極め、安全に自立した生活が送れる様な環境作りに努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム蘭寿おりもと

作成日 令和 4年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	申し送り時やフロア会議などで理解度テストを行ったり、読み合わせを行ったりしたが、外部研修に参加する機会が持てず専門的知識を学ぶことができなかった。	令和4年度は、計画をたて確実に習得したい外部研修に参加させて頂き、全員の職員がスキルアップ出来る様に目指していければと思っています。	社会福祉教育センターなどで開催されている研修や他サイトなどで確認を行うようにする。	1年
2	3	コロナ禍もあり、出席者がおらず、2か月に1回の運営推進会議が開催することが出来なかった。	非常時でも運営推進会議の開催を出来る様にする。	文章やリモートなどを使用し、開催が出来るよう努力していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。